

スポーツツチチャンバラでストレスを一刀両断!

刀と槍など違う得物で闘うことも。長ければ勝つとは限らない



2組に分かれての
集団戦。残った人
数が多い組が勝ち



いっばしの剣客になったつもりで棒きれの刀を振り回し、日が暮れるまで野山を駆け回る。そんな「チャンバラ」こそこの経験をお持ちだろうか？
子供の頃に帰って楽しく打ち合い、ストレスもきれいに消える剣道、それがスポーツツチチャンバラだ。

軽くてオシャレな面をかぶり、

特殊素材でできた柔らかい刀や槍、棒などの武器（得物という）を使って自由に打ち合うスポーツツチチャンバラ。気合をかけて力いっぱい打つことでストレスが吹き飛び、

攻防を通して護身術も身につくと、老若男女を問わず大変な人気だ。

竹刀を使う剣道の攻撃ポイントには、防具をつけている面、胴、小手に限られるが、スポーツツチチャンバラでは体のどこを狙ってもよい。とにかくどこかを先に打たれたら負け。打とうとする気迫と、打たれまいとする防衛本能がせめぎ合い、2人1組での攻防には、真剣

勝負さながらの「殺気」が漂う。

とはいえ、「安全と公正」をモットーとする武道だけに、打たれても痛みはまったくなく、得物を持つことで、非力な子供や女性でも大の男と対等に渡り合える。

「剣道をはじめとする伝統武道は、型を重んじるあまり、大衆から遊離した特殊な技術となりつつある。そこで、誰もが楽しめるように動きにくい防具の使用をやめ、試行錯誤を重ねて安全な得物と面を開発したのです。打たれた後に打ち返す「後打ち」を禁じている以外、打ち方に制約や流儀はありません。一般の武道は上達までに膨大な時間がかかりますが、スポーツツチチャンバラは入門した日から自分なり

打ち合う前に素振りの練習。最も強い打ち方を教わる



の技で打ち合える。そこが最大の魅力でしょう」と、考案者の剣道八段・田辺哲人氏は胸を張る。

誰もが潜在的に持っている攻撃本能は、時として陰惨な事件に結びつく。スポーツツチチャンバラは、人間が捨てきれないそうした「獣性」を善導するのに、最適な武道といえるのではないだろうか。

（国際スポーツツチチャンバラ協会）
045(664)7198

撮影/松尾忠晴

A! LIFE

分は刹那



今年還暦の男性。今では稽古中心の生活と



道場は全国に約300。12月に世界大会開催